亀田総合病院麻酔科専門研修プログラム

1. 専門医制度の理念と専門医の使命

① 麻酔科専門医制度の理念

麻酔科専門医制度は，周術期における患者の生体管理を中核とし，集中治療，救急医療，疼痛管理・緩和医療に至るまで，広範な領域において安全で質の高い医療を提供できる麻酔科医の育成を目的とする．
単なる「手術を支える専門家」にとどまらず，周術期全体を通じて患者の転帰を改善し，国民の健康と福祉の向上に寄与する医師を育成することを理念とする．

② 麻酔科専門医の使命

麻酔科学とは，呼吸・循環・代謝・神経機能といった生体の恒常性を統合的に制御し，侵襲下においても患者の生命機能を維持する「生体管理医学」である．
麻酔科専門医は，手術中の麻酔管理にとどまらず，術前から術後に至るまで患者の全身状態を最適化し，合併症を予防し，質の高い回復へと導く役割を担う．
さらに，集中治療，救急医療，ペインクリニック，緩和医療といった関連領域においても，生体管理の専門性を基盤として医療の質と安全を支える存在である．
亀田総合病院麻酔科では，麻酔科医を「術中管理者」ではなく，周術期医療を統括するリーダーとして位置づけ，従来の「対応する医療」から「予測し，介入する医療」への転換を担う専門職と定義している．

2. 専門研修プログラムの概要と特徴

本専門研修プログラムは，日本で初めて米国専門医機構の国際認定機関である ACGME-I の基準に基づき構築された麻酔科トレーニングプログラムであり，国際水準の医学教育を実践している．

本プログラムの特徴は，単に症例数を経験することではなく，コンピテンシーに基づく評価と継続的なフィードバックを通じて，専攻医の成長を可視化し，確実に引き上げる教育システムにある．

専攻医は，体系化された教育カリキュラムのもと，知識・技能・態度を段階的に習得し，臨床現場で自立した意思決定ができる麻酔科医へと成長する．

亀田総合病院では，年間約1万件に及ぶ手術症例を背景に，心臓血管外科，呼吸器外科，小児，産科，NORA（非手術室麻酔）を含む幅広い麻酔管理を一施設で完結して経験することができる．さらに，集中治療，救急医療，ペインクリニックを同一施設内で横断的に研修できる体制により，「周術期医療を俯瞰できる臨床力」を養成する．

連携施設である

- 岡山大学病院
- 東京女子医科大学病院
- 手稲渓仁会病院
- 自治医科大学附属病院
- 順天堂医院
- 東邦大学医療センター大森病院
- 杏林大学医学部附属病院
- 三井記念病院
- SHIODA塩田記念病院
- 名古屋大学病院
- 高槻病院
- 香川県中央病院
- 東京女子医科大学附属足立医療センター
- 東京都立小児総合医療センター
- 聖路加国際病院

では，地域医療から高度専門医療まで，多様な医療環境における研修が可能である．

また，本プログラムは国際性を重視しており，海外からの研修医・フェローを積極的に受け入れている．英語でのカンファレンスや日常診療を通じて，グローバルな視点とコミュニケーション能力を自然に習得できる環境が整っている．

最終的に本プログラムが目指すのは，単なる麻酔技術の習得ではなく，「周術期医療をデザインし，患者アウトカムを変えることができる麻酔科医」の育成である．

3. 専門研修プログラムの運営方針

- 研修の前半2年間は，専門研修基幹施設で研修を行う．
- 残りの2年間は、専門研修連携施設や当科ペインクリニック外来、集中治療室等において研修を行い，移植、小児心臓麻酔等の研修も行う。
- 研修内容・進行状況に配慮して，プログラムに所属する全ての専攻医が経験目標に必要な特殊麻酔症例数を達成できるように，ローテーションを構築する．
- 専門医研修終了後に海外留学や大学院進学を希望する専攻医に対しても、研修中よりそれぞれ必要な情報を提供し、円滑に進めるように配慮していく。

研修実施計画例

年間ローテーション表

	1年目	2年目	３年目	４年目

A:一般麻酔コース	一般麻酔(5ヶ月) 脳外科麻酔(2ヶ月) 胸部外科麻酔(1ヶ月) 産科麻酔(1ヶ月) 区域麻酔(1ヶ月) ICU(2ヶ月)	一般麻酔(4ヶ月) 区域麻酔(1ヶ月) 小児麻酔(2ヶ月) 産科麻酔(2か月) 心臓外科麻酔(3ヶ月)	院外研修(3ヶ月) 一般麻酔(2ヶ月) 緩和(1ヶ月) ペイン(1ヶ月) ICU(2ヶ月) 研究(1ヶ月)	麻酔管理研修(6ヶ月) 一般麻酔(2ヶ月) ペイン(2ヶ月) NORA(1ヶ月) 研究(1ヶ月)
B:麻酔・集中治療コース	ICU(2ヶ月) 一般麻酔(5ヶ月) 脳外科麻酔(2ヶ月) 胸部外科麻酔(1ヶ月) 産科麻酔(1ヶ月) 区域麻酔(1ヶ月)	ICU(2ヶ月) 一般麻酔(2ヶ月) 区域麻酔(1ヶ月) 小児麻酔(2ヶ月) 産科麻酔(2か月) 心臓外科麻酔(3ヶ月)	ICU(4ヶ月) 院外研修(3ヶ月) 一般麻酔(2ヶ月) 緩和(1ヶ月) ペイン(1ヶ月) 研究(1ヶ月)	ICU(4ヶ月) 麻酔管理研修(2ヶ月) 一般麻酔(2ヶ月) ペイン(2ヶ月) NORA(1ヶ月) 研究(1ヶ月)

週間予定表

亀田総合病院の例

	月	火	水	木	金	土	日
午前	手術室	手術室	手術室	手術室	手術室	休み	休み
午後	手術室	手術室	手術室	手術室	手術室	休み	休み

上記に加え，月4回程度のオンコール.
オンコール明けは休み又は非臨床日.

4. 研修施設の指導体制

① 専門研修基幹施設

亀田総合病院

研修実施責任者：植田 健一

専門研修指導医：植田 健一（麻酔）
吉沼 裕美（麻酔，ペインクリニック）
室内 健志（麻酔）
中澤 遥（麻酔）
林 淑朗（麻酔，集中治療）
河野 宏之（麻酔）
柘植 雅嗣（麻酔）
竹原 由佳（麻酔）
劉 丹（麻酔）
加納 美咲（麻酔）
藤井 真理映（麻酔）
荻野 仁史（麻酔）
藤本 萌子（麻酔）

認定病院番号：367
特徴：千葉県南房総地区において中心的な役割を果たす施設．早くから米国式研修医システムを取り入れ，研修医を育てることを得意とする病院施設である．外科においては，心臓手術，呼吸器外科，食道外科をはじめとする高度医療から一般外科まで幅広く手術症例があり，年間1 万例以上の手術件数を誇る．ペインクリニック認定施設でもあり，他に，当院にて集中治療，救急医療のローテーションも可能となっている．集中治療科は，クローズド・システムの内科・外科混合の ICU を管理し，24 時間 365 日シフト制で集中治療専門医の指導のもと診療にあたる．

② 専門研修連携施設

岡山大学病院
研修実施責任者：森松　博史
専門研修指導医：森松　博史（麻酔，集中治療）
岩﨑　達雄（麻酔，集中治療）
清水　一好（麻酔，集中治療）
松岡　義和（麻酔，集中治療）
金澤　伴幸（麻酔，集中治療）
鈴木　聡（麻酔，集中治療）
谷　真規子（麻酔，集中治療，医学教育）
荒川　恭佑（麻酔，集中治療，ペインクリニック）
岡原　修司（麻酔，集中治療）
清水　達彦（麻酔，集中治療）
伊加　真士（麻酔，集中治療）
大岩　雅彦（麻酔，集中治療）
片山　明（麻酔，集中治療）
佐倉　考信（麻酔，集中治療）
須江　宣俊（麻酔，集中治療，ペインクリニック）
河野　圭史（麻酔，集中治療）
木村　貴一（麻酔，集中治療）
根ケ山　諒（麻酔，集中治療）
山﨑　友輔（麻酔，集中治療）
専門医：礒山　智史（麻酔，集中治療）
杉原　真由（麻酔，集中治療）
松岡　勇斗（麻酔，集中治療）
池田　遼太郎（麻酔，集中治療，ペインクリニック）
伊藤　慶昭（麻酔，集中治療，ペインクリニック）
寺尾　英梨奈（麻酔）
藤井　彩加（麻酔，集中治療）
市瀬　仁（麻酔，集中治療）
認定病院番号:23
特徴：小児心臓手術や臓器移植手術（肺，肝，腎）などの高度先進医療に加えて，食道手術や呼吸器外科手術における分離肺換気など特殊麻酔症例も数多く経験できる． また麻酔のみならず，小児を含む集中治療（20床），ペインクリニックの研修も可能であ

る．また周術期管理センターが確立しており，多職種による周術期チーム医療システムを学ぶこともできる．

東京女子医科大学病院 （以下，東京女子医科大学本院）
研修プログラム統括責任者:長坂　安子(麻酔)
専門研修指導医:長坂　安子(麻酔)
黒川　智(麻酔)
尾崎　恭子(麻酔)
鈴木　康之(麻酔)
笹川　智貴(麻酔，ペインクリニック)
吉谷　健司(麻酔)
土井　健司(麻酔)
石川　高(麻酔)
古井　郁恵(麻酔)
山本　偉(麻酔)
森脇　翔太(麻酔)
武石　健太(麻酔)
中澤　莉沙(麻酔)
加賀屋　菜々(麻酔)
鈴木　真也(麻酔)
川本　英智(麻酔)
羽二生　顕(麻酔)

認定病院番号: 32
特徴:豊富な症例数を背景として包括的な麻酔研修・ペインクリニック・緩和ケアの研修も可能です．心臓麻酔研修は特に力を入れており，心臓麻酔専門医の取得も可能です．多種の臓器移植(心臓・腎臓)や合併症(先天性心疾患等)妊娠の管理，エコーガイド下ブロック麻酔研修など様々なスペシャリティに対応します．

手稲渓仁会病院
研修実施責任者： 横山　健（麻酔，集中治療）
専門研修指導医： 横山 健（麻酔，集中治療）
石原 聡（麻酔、集中治療）
上村 亮介（麻酔、集中治療）
北原 淳一郎（麻酔、集中治療）
岩井 英隆（麻酔、集中治療）
武田 美和子（麻酔）
西村 一美（麻酔）
仙葉　有紀（麻酔）
坂下　実香子（麻酔）

認定病院番号：486
特徴：道内で中心的な役割を果たす超急性期手術施設．集中治療のローテーション可能で術前・術後まで一貫した周術期管理を行っています。

自治医科大学医学部附属病院
研修プログラム統括責任者：五十嵐孝
専門研修指導医：五十嵐孝（ペインクリニック，産科麻酔）
讃井將満（集中治療）
佐藤正章（蘇生学，医学教育）
堀田訓久（ペインクリニック，区域麻酔）
末盛智彦（小児集中治療，心臓麻酔）
永野達也（小児麻酔，小児集中治療）
関厚一郎（心臓麻酔，集中治療）
篠原貴子（小児麻酔，ペインクリニック）
原村陽子（小児麻酔，小児集中治療）
吉永晃一（心臓麻酔，集中治療）
山本令子（手術麻酔）
佐多奈歩（集中治療）
原鉄人（手術麻酔，集中治療）
山田希生（手術麻酔，移植手術麻酔）
専　　門　　医：山田衣璃（手術麻酔）
橋浦薫（手術麻酔）
中村美織（手術麻酔）
田中諒子（手術麻酔）
山田高嗣（手術麻酔）
小林正（手術麻酔）
佐々木誉詩子（手術麻酔）

麻酔科認定病院番号：105
特徴：当院は全国初の大学病院併設型の子ども医療センターを有し，周産期母子センター，がん拠点病院といった多数の機能を有している．また救命救急センターを経由した緊急手術が多いのが特徴である．専攻医はあらゆる診療科のcommon diseaseに対する手術から高難易度術式，希少疾患を背景とした患者の麻酔などを幅広く経験可能である．また2025年度より移植医療支援室型拠点施設に指定され、肝・腎・膵臓移植を主軸に北関東の臓器移植の拠点となっている．術後疼痛管理チームの運用やペインクリニック，緩和ケア，集中治療など様々なサブスペシャリティの指導医が揃っており，専攻医一人ひとりのニーズに即した研修プログラムを提供している．
2025年度　麻酔科管理症例数　7,967症例

順天堂大学医学部附属順天堂医院（以下，順天堂医院）
研修実施責任者：川越いづみ
専門研修指導医：川越いづみ（呼吸器外科麻酔・区域麻酔）
石川晴士（胸部外科麻酔・術前外来）
赤澤年正（麻酔全般・心臓血管外科麻酔）
長島道生（集中治療）
竹内和世（麻酔全般・小児麻酔）
工藤　治（麻酔全般）
岩田志保子（麻酔全般・心臓血管外科麻酔）
掛水真帆（麻酔全般・心臓血管外科麻酔）
尾堂公彦（麻酔全般・心臓血管外科麻酔）
河邉千佳（麻酔全般・小児麻酔）
安藤　望（麻酔全般・小児麻酔）

阿部まり子（麻酔全般・小児麻酔）
福田征孝（麻酔全般）
豊田有加里（麻酔全般）
櫻谷初奈（麻酔全般）
林　愛　（麻酔全般）
藤野隆史（麻酔全般）
岡田尚子（麻酔全般・産科麻酔）
門倉ゆみ子（麻酔全般・産科麻酔）
千葉聡子（ペインクリニック）
山田恵子（ペインクリニック）
原　厚子（ペインクリニック）
濱岡早枝子（ペインクリニック）
武田泰子（ペインクリニック）
太田　浄（ペインクリニック）
林田眞和（心臓血管外科麻酔）
西村欣也（小児麻酔）
井関雅子（ペインクリニック、緩和ケア）
三高千惠子（集中治療）
近江禎子（麻酔全般・産科麻酔）

専門医：稲田美香子（麻酔全般）
山口　愛（麻酔全般）
草野有佳里（麻酔全般）
池田麻里絵（麻酔全般）
伊東由圭（麻酔全般）
宇田川梨子（麻酔全般）
桃井千恵（麻酔全般）
岩佐　美（麻酔全般）
米本周平（麻酔全般）
森　悠子（麻酔全般）
多賀慶子（麻酔全般）
室谷修平（麻酔全般）
廣瀬友基（麻酔全般）
箕浦真奈美（麻酔全般・産科麻酔）

麻酔科認定病院番号：12
特徴：各診療科の手術数が多く最先端医療の導入にも積極的であるため、豊富な麻酔症例を経験でき、各サブスペシャリティーの指導陣も充実している。ペインクリニック、緩和ケア、集中治療、産科麻酔の長期・短期のローテーションも可能である。多職種で構成される包括的な術前外来も整備され、麻酔安全面へ大きく寄与している。

東邦大学医療センター大森病院
研修実施責任者：武田　吉正
専門研修指導医：武田　吉正　（区域麻酔・集中治療）
石川　慎一　（手術麻酔・ペインクリニック）
花崎　元彦　（手術麻酔・集中治療）
武藤　理香　（小児麻酔）
岩本　津和　（手術麻酔・教育）

岸田　浩一　（手術麻酔・心臓血管麻酔）
土肥　泰明　（手術麻酔・心臓血管麻酔）
矢野　喜一　（手術麻酔・心臓血管麻酔）
村上　徹　（手術麻酔）
小野寺　勇人（手術麻酔・心臓血管麻酔）
尾崎　由佳　（手術麻酔）
専門医：　大越　一毅　（手術麻酔・心臓血管麻酔）
安田　絢子　（手術麻酔・心臓血管麻酔）
遠藤　奈穂　（手術麻酔・心臓血管麻酔）
島津　恵介　（手術麻酔・心臓血管麻酔）
中谷　剛仁　（手術麻酔・心臓血管麻酔）
永野　菜月　（手術麻酔・心臓血管麻酔）
鈴木　崇文　（手術麻酔・小児麻酔）
秋山　拓也　（手術麻酔・心臓血管麻酔）
阿瀬　千咲　（手術麻酔）
久保　瑠依志（手術麻酔）
崔　英姫　（手術麻酔）
藤田　彩恵　（手術麻酔）
丹治　紗百合（手術麻酔・心臓血管麻酔）
朴　在元　（手術麻酔・心臓血管麻酔）
中澤　凛　（手術麻酔）
川木　譲　（手術麻酔）
岩井　愛　（手術麻酔）
専攻医：　吉岡　慶太郎
森　厚楨

麻酔科認定病院番号：71
特徴：術前から術後のICU管理までを担当し、周術期の全身管理を修得します。手術麻酔、集中治療、ペインクリニック、無痛分娩、周術期センターを幅広く研修できます。区域麻酔では運動枝を温存し知覚をブロックするawake hand surgeryなど様々なブロックを行っています。臨床解剖を行っており高難度な神経ブロックを安全に修得できます。

杏林大学医学部付属病院
研修プログラム統括責任者：森山　潔
専門研修指導医：　森山　潔　（集中治療）
萬　知子　（手術麻酔全般・医療安全）
鎮西　美栄子　（緩和医療）
徳嶺　譲芳　（手術麻酔全般・医療安全）
関　博志　（手術麻酔全般・周術期管理）
小谷　真理子　（集中治療）
藤井　範子　（心臓麻酔）
渡辺　邦太郎　（区域麻酔・ペインクリニック）
本保　晃　（周術期管理・産科麻酔）
足立　智　（心臓麻酔）
安藤　直朗　（手術麻酔全般）
澤田　龍治　（区域麻酔・ペインクリニック）
専門医　：　朽名　佳代子　（手術麻酔全般・緩和医療）
江間　章悟　（産科麻酔・小児麻酔）

吉川　貴紘　　（手術麻酔全般）
元山　宏展　　（手術麻酔全般・集中治療）
秋澤　千尋　　（手術麻酔全般・ペインクリニック）
小野　元彰　　（手術麻酔全般・集中治療）
川船　麦　　（手術麻酔全般）
齊藤　由希子　（手術麻酔全般・集中治療）
平井　茉莉　　（手術麻酔全般・ペインクリニック）

認定病院番号 147

特徴：東京都多摩地区の基幹病院です。多摩地域唯一の大学病院の本院で，年間約7,000件超の麻酔科管理症例があり、麻酔科専門医に必要な手術症例を偏りなく研修することができます。ロボット手術や大動脈ステント、TAVI、Mitra Clipといった先進医療や高難度手術の症例も経験可能です。術前診察外来、術後疼痛管理チーム、集中治療、無痛分娩、ペインクリニックの症例も豊富です。手術麻酔に限らず、周術期管理を通して、患者の安全に寄与できる麻酔科医の育成を目指しています。

三井記念病院

研修プログラム統括責任者：横塚基

専門研修指導医：横塚基　（麻酔，心臓麻酔）
大野長良　（麻酔，心臓麻酔）
竹内純平　（麻酔，心臓麻酔）
大槻達道　（麻酔，心臓麻酔）
佐藤瑞穂　（麻酔，蘇生）
今井恵理哉（麻酔，心臓麻酔，集中治療）
田中真佑美（麻酔）
松永渉　　（麻酔，心臓麻酔）
山本麻里　（麻酔）
滑川元希　（麻酔，心臓麻酔，集中治療）

専門医：小平亜美　（麻酔，心臓麻酔）
仲西里奈子（麻酔）
小嶋太郎　（麻酔）

認定病院番号：68

特徴：特徴：東京都，区中央部医療圏の高度急性期機能・急性期機能を担うことに特化した急性期病院．CCUネットワークや急性大動脈ネットワークを通じて，重篤な緊急患者の受け入れを積極的に行っている．また，地域医療支援病院・災害拠点病院として地域医療の中核を担っている．成人の心臓麻酔・透析患者・重症患者を中心に幅広い症例を経験できる．

医療法人 SHIODA 塩田記念病院

研修実施責任者：　　中村京一

専門医研修指導医：　中村京一（麻酔）

認定病院番号：1732

特徴: 千葉県長生地域にある病床数115 床の脳神経外科、整形外科、外科、肝臓内科を中心

とした急性期病院です。
手術室 2 室、血管造影室 2 室を設けており、脳神経外科手術、脳血管内治療、整形外科手術、外科手術を主に行っております。
日中の救急医療の他に、当院を含む 6 医療機関持ち回りで夜間救急も行っております。

名古屋大学医学部附属病院

研修実施責任者：秋山　浩一
専門研修指導医：秋山　浩一（麻酔、心臓血管麻酔）
荒川　陽子（麻酔）
柴田　康之（麻酔、ペインクリニック、区域麻酔）
鈴木　章悟（麻酔、集中治療）
浅野　市子（麻酔、ペインクリニック）
川瀬　宏和（麻酔、集中治療）
尾関　奏子（麻酔）
園部　奨太（麻酔、集中治療）
山根　光和（麻酔、集中治療、心臓血管麻酔）
安藤　貴宏（麻酔）
赤根　亜希子（麻酔）
平井　昂宏（麻酔、集中治療）
佐藤　威仁（麻酔、集中治療、ペインクリニック）
米倉　寛（麻酔、集中治療）
駒場　智美（麻酔）
谷口　菜奈子（麻酔）
藤井　祐（麻酔、集中治療、心臓血管麻酔）
天野　靖大（麻酔）
三澤　知子（麻酔）

麻酔科認定病院番号：38
特徴：名古屋大学医学部附属病院麻酔科では、年間7,500件以上の麻酔管理症例を有しており、超低出生体重児から超高齢者まで、あらゆる年齢層・疾患に対応した高度な麻酔研修が可能です。
2025年度には、心臓血管外科727例、胸部外科537例、脳神経外科413例、帝王切開185例、6歳未満の小児472例の麻酔管理を実施しており、幅広い診療科にわたる多様な麻酔症例を経験できます。特に小児麻酔分野では、2013年に小児がん拠点病院に指定されて以降、小児外科、小児整形外科、小児脳神経外科などの小児がんに対する手術麻酔において豊富な実績を誇ります。2021年度からは小児へのDa Vinci手術も開始されており、高度な小児外科手術麻酔の研修も可能です。
産科麻酔では、母体合併症や胎児異常を有するハイリスク妊婦の帝王切開麻酔を多く担当しており、超緊急帝王切開では決定から30分以内の娩出を目標に、産科チームと密に連携しながら迅速な対応を実現しているほか、無痛分娩にも対応しています。
心臓血管外科領域では、CABGや弁置換術に加え、大動脈瘤などの大血管手術にも積極的に取

り組んでいます。重症心不全センターを併設し、年間約10例の体内式左室補助人工心臓（LVAD）植え込み術を行っており、心移植適応患者への高度な麻酔管理経験を積むことが可能です。2022年度からは小児心臓外科手術が開始され、2025年度には約80例の小児心臓外科手術の麻酔を行い、小児循環器麻酔にも深く関わることができます。
また、当院では腎移植・肝移植・心移植に対応しており、2025年度からは肺移植も4例実施されました。移植医療の麻酔という、極めて専門性の高い領域においても実践的な経験を積むことができます。
そして、当院のもう一つの大きな特色が、麻酔科主導のClosed ICUである「外科系集中治療部（SICU）」の存在です。SICUでは2025年度には年間2,135例の重症患者を受け入れています。その約半数が術後症例ですが、残りの半数は敗血症、ARDS、肺炎、急性腎障害といった重症疾患であり、集中治療を要する重症病態に広く対応しています。麻酔科医が中心となって診療を行うClosed ICU体制をとっており、術後管理だけでなく、感染症・呼吸循環不全・多臓器不全などの集学的治療を通じて、高度な重症病態の管理スキルを身につけることができます。
麻酔科専攻医は3〜6ヶ月間のSICUローテートが可能で、集中治療専門医の取得を目指す場合には、必要に応じてさらに研修を継続することができます。多職種連携を重視したチーム医療が行われており、医師としての視野を広げながら、麻酔＋集中治療の二本柱でのキャリア形成が可能です。
さらに、週3回のペインクリニック外来および入院管理も行っており、慢性疼痛や神経ブロック、がん性疼痛に対する介入など、麻酔関連領域にも幅広く対応できる力を養うことができます。

名古屋大学医学部附属病院麻酔科は、手術麻酔にとどまらず、集中治療、移植医療、小児・産科・心臓外科麻酔、ペインクリニックといった多岐にわたるフィールドで質の高い教育と実践の場を提供しています。豊富な症例数と充実した指導体制のもと、将来の専門医・指導医を目指すために最適な研修環境を整えています。

社会医療法人愛仁会高槻病院
研修実施責任者：三宅隆一郎
専門研修指導医：三宅隆一郎（麻酔，心臓血管麻酔）
中島正順（麻酔）
土居ゆみ（小児麻酔，小児集中治療）
入澤友美（麻酔，区域麻酔，集中治療）
西田隆也（麻酔，集中治療）
棚田和子（麻酔，心臓血管麻酔）

認定病院番号：829
特徴：大阪北摂地域で新生児から高齢者まで幅広い層に急性期医療を提供している．総合周産期母子医療センターを備えているため産科・小児（新生児含む）麻酔を豊富に経験することができる．また緊急手術の麻酔症例も多く，心臓血管外科や脳神経外科等も含めた様々な手術の麻酔を研修することが可能である．

香川県立中央病院

研修実施責任者：平崎　盟人
専門研修指導医：平崎　盟人　（麻酔，集中治療）
谷津　祐市　（麻酔，集中治療）
井上　一由　（麻酔，集中治療）
大西　淳司　（麻酔，集中治療）
大西　藍　（麻酔）
小畑　ダニエル（麻酔，ペインクリニック）
黒江泰利　（麻酔，集中治療）

認定病院番号：150
特徴：香川県の中核病院の１つ。
年間麻酔科管理症例は3500前後で、専門医取得に必要な症例はすべて経験できる。形成外科、口腔外科などの症例もある。
ICUは8床と病床数は多くないがクローズド・システムで麻酔科が管理しており、大手術の術後、外傷、呼吸不全、循環不全、中毒など種々の病態を経験できる。
ペインクリニック認定施設であり、希望があれば研修可能である。

東京女子医科大学附属足立医療センター
研修プログラム統括責任者：市川順子
専門研修指導医：市川順子（麻酔，心臓麻酔）
小森万希子（麻酔、ペインクリニック、集中治療）
西山圭子（麻酔，集中治療）
専門医：向山瑶子（麻酔）
福田友樹（麻酔）

認定病院番号：61
特徴：重症症例を含む多くの麻酔症例を経験でき、硬膜外カテーテル留置、神経ブロックなど様々な手技を1年目から学べます。更に、ペインクリニック，集中治療、心臓麻酔、小児麻酔を集中的に学ぶことで、サブスペシャリティに進む端緒となる研修が可能です。

東京都立小児総合医療センター
研修実施責任者：西部　伸一
専門研修指導医：西部　伸一（小児麻酔）
山本　信一（小児麻酔）
簔島　梨恵（小児麻酔）
伊藤　紘子（小児麻酔）
箱根　雅子（小児麻酔）
佐藤　慎（小児麻酔）
千田雄太郎（小児麻酔）
専門医：福島　達郎（小児麻酔）
和田　涼子（小児麻酔）

認定病院番号：1468

特徴：地域における小児医療の中心施設であり、治療が困難な高度専門医療、救命救急医療、こころの診療を提供している。年間麻酔管理件数が4000件以上と症例数が豊富で、一般的な小児麻酔のトレーニングに加え、新生児麻酔、心臓麻酔、気管形成術の麻酔などの研修が行える。また、積極的に区域麻酔を実施しており、超音波エコーガイド下神経ブロックを指導する体制も整っている。2019年度より心臓血管麻酔専門医認定施設となっている。

聖路加国際病院

研修実施責任者：阿部　世紀

日本麻酔科学会指導医・厚生労働省認定臨床研修指導医資格：

専門研修指導医: 阿部　世紀　（麻酔、小児麻酔）
藤田　信子　（麻酔、心臓麻酔、産科麻酔、ペインクリニック）
佐久間　麻里　（麻酔、救急）
林　怜史　（麻酔、心臓麻酔、ICU）
篠田　麻衣子　（麻酔、区域麻酔）
早坂　知子　（麻酔、区域麻酔）
宮坂　清之　（麻酔、小児麻酔、シミュレーション教育）
小山　杏奈　（麻酔、ペインクリニック、産科麻酔）
城本　菜那　（麻酔、心臓麻酔）
大橋　雄大　（麻酔、産科麻酔）
井上　真由子　（麻酔、心臓麻酔）
坂野　彩　（麻酔、心臓麻酔）
吉武　朱里　（麻酔、産科麻酔）
蓮下　雄大　（麻酔、ペインクリニック）
山上　郁雄　（麻酔、心臓麻酔）
ハシチウォヴィッチ トマシュ　（麻酔、APS）
鈴木亜沙美　（麻酔、産科麻酔）

認定病院番号：249

当院の手術室は15室あり、心臓外科、小児外科、胸部外科、腹部外科、脳神経外科、無痛分娩、また先端医療（TAVI、Mitralclip、Da Vinci手術（泌尿器、呼吸器外科、婦人科、外科、心臓外科）など）も含めた、幅広い症例が経験できる。
挿管・硬膜外カテーテル留置・中心静脈カテーテル留置、神経ブロックなど、様々な手技を習得し、合併症のある症例の麻酔も上級医の指導のもと独立して担当できます。心臓血管麻酔・産科麻酔など、将来サブスペシャリティー領域へ進む足がかりとなるトレーニングが受けられる。

5. 専攻医の採用と問い合わせ先

① 採用方法

専攻医に応募する者は，日本専門医機構に定められた方法により，期限までに（2022年9 月ごろを予定）志望の研修プログラムに応募する．

② 問い合わせ先

本研修プログラムへの問い合わせは，亀田総合病院 卒後研修センター
電話，e-mail，郵送のいずれの方法でも可能である。
医療法人鉄蕉会 亀田総合病院 卒後研修センター
〒296-8602 千葉県鴨川市東町
929 Tel:04-7092-2211
E-mail：kouki-kenshu@kameda.jp
Website: http://www.kameda-resident.jp/senior/program/bk_etc01.html

6. 麻酔科医資格取得のために研修中に修めるべき知識・技能・態度について

① 専門研修で得られる成果（アウトカム）

麻酔科領域の専門医を目指す専攻医は，4年間の専門研修を修了することで，安全で質の高い周術期医療およびその関連分野の診療を実践し，国民の健康と福祉の増進に寄与することができるようになる．具体的には，専攻医は専門研修を通じて下記の4つの資質を修得した医師となる．

1）十分な麻酔科領域，および麻酔科関連領域の専門知識と技能
2）刻々と変わる臨床現場における，適切な臨床的判断能力，問題解決能力
3）医の倫理に配慮し，診療を行う上での適切な態度，習慣
4）常に進歩する医療・医学に則して，生涯を通じて研鑽を継続する向上心

② 麻酔科専門研修の到達目標

国民に安全な周術期医療を提供できる能力を十分に備えるために，研修期間中に別途資料**「麻酔科専攻医研修マニュアル」**に定められた専門知識，専門技能，学問的姿勢，医師としての倫理性と社会性に関する到達目標を達成する．

③ 麻酔科専門研修の経験目標

研修期間中に専門医としての十分な知識，技能，態度を備えるために，別途資料**「麻酔科専攻医研修マニュアル」**に定められた経験すべき疾患・病態，経験すべき診療・検査，経験すべき麻酔症例，学術活動の経験目標を達成する．

このうちの経験症例に関して，原則として研修プログラム外の施設での経験症例は算定

できないが，地域医療の維持など特別の目的がある場合に限り，研修プログラム管理委員会が認めた認定病院において卒後臨床研修期間に経験した症例のうち，専門研修指導医が指導した症例に限っては，専門研修の経験症例数として数えることができる．

7. 専門研修方法

別途資料**「麻酔科専攻医研修マニュアル」**に定められた１）臨床現場での学習，２）臨床現場を離れた学習，３）自己学習により，専門医としてふさわしい水準の知識，技能，態度を修得する．

8. 専門研修中の年次毎の知識・技能・態度の修練プロセス

専攻医は研修カリキュラムに沿って，下記のように専門研修の年次毎の知識・技能・態度の到達目標を達成する．

専門研修 1 年目

手術麻酔に必要な基本的な手技と専門知識を修得し，ASA１～２度の患者の通常の定時手術に対して，指導医の指導の元，安全に周術期管理を行うことができる．

専門研修 2 年目

1 年目で修得した技能，知識をさらに発展させ，全身状態の悪い ASA３度の患者の周術期管理や ASA１～２度の緊急手術の周術期管理を，指導医の指導のもと，安全に行うことができる．

専門研修 3 年目

心臓外科手術，胸部外科手術，脳神経外科手術，帝王切開手術，小児手術などを経験し，さまざまな特殊症例の周術期管理を指導医のもと，安全に行うことができる．また，ペインクリニック，集中治療，救急医療など関連領域の臨床に携わり，知識・技能を修得する．

専門研修 4 年目

3 年目の経験をさらに発展させ，さまざまな症例の周術期管理を安全に行うことができる．基本的にトラブルのない症例は一人で周術期管理ができるが，難易度の高い症例，緊急時などは適切に上級医をコールして，患者の安全を守ることができる．

9. 専門研修の評価（自己評価と他者評価）

① 形成的評価

- 研修実績記録：専攻医は毎研修年次末に，専攻医研修実績記録フォーマットを用いて自らの研修実績を記録する．研修実績記録は各施設の専門研修指導医に渡される．
- 専門研修指導医による評価とフィードバック：研修実績記録に基づき，専門研修指導医は各専攻医の年次ごとの知識・技能・適切な態度の修得状況を形成的評価し，研修実績および到達度評価表，指導記録フォーマットによるフィードバックを行う．研

修プログラム管理委員会は，各施設における全専攻医の評価を年次ごとに集計し，専攻医の次年次以降の研修内容に反映させる．

② 総括的評価

研修プログラム管理委員会において，専門研修４年次の最終月に，専攻医研修実績フォーマット，研修実績および到達度評価表，指導記録フォーマットをもとに，研修カリキュラムに示されている評価項目と評価基準に基づいて，各専攻医が専門医にふさわしい①専門知識，②専門技能，③医師として備えるべき学問的姿勢，倫理性，社会性，適性等を修得したかを総合的に評価し，専門研修プログラムを修了するのに相応しい水準に達しているかを判定する．

10. 専門研修プログラムの修了要件

各専攻医が研修カリキュラムに定めた到達目標，経験すべき症例数を達成し，知識，技能，態度が専門医にふさわしい水準にあるかどうかが修了要件である．各施設の研修実施責任者が集まる研修プログラム管理委員会において，研修期間中に行われた形成的評価，総括的評価を元に修了判定が行われる．

11. 専攻医による専門研修指導医および研修プログラムに対する評価

専攻医は，毎年次末に専門研修指導医および研修プログラムに対する評価を行い，研修プログラム管理委員会に提出する．評価を行ったことで，専攻医が不利益を被らないように，研修プログラム統括責任者は，専攻医個人を特定できないような配慮を行う義務がある．

研修プログラム統括管理者は，この評価に基づいて，すべての所属する専攻医に対する適切な研修を担保するために，自律的に研修プログラムの改善を行う義務を有する．

12. 専門研修の休止・中断，研修プログラムの移動

① 専門研修の休止

- 専攻医本人の申し出に基づき，研修プログラム管理委員会が判断を行う．
- 出産あるいは疾病などに伴う６ヶ月以内の休止は 1 回までは研修期間に含まれる．
- 妊娠・出産・育児・介護・長期療養・留学・大学院進学など正当な理由がある場合は，連続して 2 年迄休止を認めることとする．休止期間は研修期間に含まれない．
  研修プログラムの休止回数に制限はなく，休止期間が連続して 2 年を越えていなければ，それまでの研修期間はすべて認められ，通算して 4 年の研修期間を満たせばプログラムを修了したものとみなす．
- 2 年を越えて研修プログラムを休止した場合は，それまでの研修期間は認められない．ただし，地域枠コースを卒業し医師免許を取得した者については，卒後に課せられた義務を果たすために特例扱いとし 2 年以上の休止を認める．

② 専門研修の中断

- 専攻医が専門研修を中断する場合は，研修プログラム管理委員会を通じて日本専門医機構の麻酔科領域研修委員会へ通知をする.
- 専門研修の中断については，専攻医が臨床研修を継続することが困難であると判断した場合，研修プログラム管理委員会から専攻医に対し専門研修の中断を勧告できる.

③ 研修プログラムの移動

- 専攻医は，やむを得ない場合，研修期間中に研修プログラムを移動することができる．その際は移動元，移動先双方の研修プログラム管理委員会を通じて，日本専門医機構の麻酔科領域研修委員会の承認を得る必要がある．麻酔科領域研修委員会は移動をしても当該専攻医が到達目標の達成が見込まれる場合にのみ移動を認める.

13. 地域医療への対応

本研修プログラムの連携施設には，地域医療の中核病院としての安房地域医療センター，SIODA 塩田記念病院など幅広い連携施設が入っている．医療資源の少ない地域においても安全な手術の施行に際し，適切な知識と技量に裏付けられた麻酔診療の実施は必要不可欠であるため，専攻医は，大病院だけでなく，地域での中小規模の研修連携施設においても一定の期間は麻酔研修を行い，当該地域における麻酔診療のニーズを理解する.

14. 専攻医の就業環境の整備機能（労務管理）

研修期間中に常勤として在籍する研修施設の就業規則に基づき就業することとなります.専攻医の就業環境に関して，各研修施設は労働基準法や医療法を順守することを原則とします．プログラム統括責任者および各施設の研修責任者は専攻医の適切な労働環境（設備，労働時間，当直回数，勤務条件，給与なども含む）の整備に努めるとともに、心身の健康維持に配慮します.

年次評価を行う際，専攻医および専門研修指導医は研修施設に対する評価（Evaluation）も行い，その内容を専門研修プログラム管理委員会に報告する． 就業環境に改善が必要であると判断した場合には、当該施設の施設長、研修責任者に文書で通達・指導します.